

society&business Tokyo25 journal 25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

威勢良い、昔の魚屋健在

加藤水産 加藤清さん 青梅市河辺町

青梅市河辺町の加藤水産は同地に店を構えて45年経つ。威勢の良

い、昔ながらの魚屋は、地域住民の台所を支えている。その原動力が、創業者の加藤清さん(80)。息子の学さん(52)に代を譲つても元気に店に立ち続ける。

まちに生きる

人生80年を「十分やった」と振り返る加藤さんは、檜原村神戸の出身。中学を出ると五日市の十一屋で、住み込みで働いた。毎日の御用聞きの中で商売のコツをつかんだ。仕事は苦になるどころか、御

が夜が明けると前に八王子の市場に出かけ、目利きし仕入れる。「自分で食べて不味ければ売らない」がモットー



「自分で食べて不味ければ売らない」がモットー

も自家製。となれば他市町からまとめ買いに来る客も少なくない。加藤さんが仕事と同じように力を入れてきたのが少年野球。五日市キングパワーズの初代会長を務め、西多摩

少年軟式野球連合会の理事を務めた。加藤さんらしいのが、優勝チームは上位の大会に進むが、準優勝チームはそこまでで、悔しい思いをしよう。それなら準優勝チームを集めて大会を開けばいいと、自費で加藤杯を10年間開催した。

キルギス新大使を歓迎

羽村市キルギス親善友好団 羽村の堰など見学



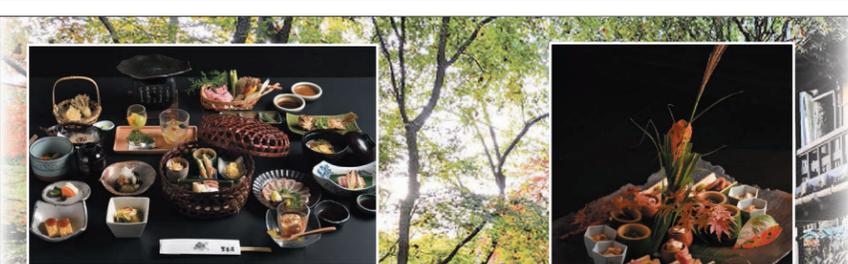
キルギス新大使(右から5人目)を囲んで羽村市キルギス親善友好団の有志

キルギス共和国のエイキンベク・オソエフ大使が10月7日、羽村市を訪れ、同市博物館や羽村の堰を見学した。羽村市キルギス親善友好団が招いたもので、歴史と文化を理解し、観光を楽しみながら友好を深めた。

同市は「柔道グランドスラム大阪2018」で同国男子チームの事前キャンプを受け入れたことをきっかけに、19年6月に東京2020オリンピックのキルギス共和国ホストタウンに登録された。その後は中央アジアにある同国を紹介するスポーツや文化の交流事業を実施。友好を深めてきた。

オソエフ大使は妻と3人の子どもと訪れ、同友好団の代表を務める小宮国暉さん、田村

実さん、島田弘道さん、浜中庄次さん、幸枝さん夫妻、山田久代さん、並木心さんらがキルギス語で「サラーム(こんにちは)」とあいさつし、出迎えた。同市博物館では羽村の堰と玉川上水、世界一長い小説として知られる同市出身の中里介山の「大菩薩峠」などの説明を受けた。羽村の堰では、江戸時代前



黒茶屋

あきる野市小中野167
☎042-596-0129

営業時間
— 昼のお食事 —
午前11時~午後3時(受付)
— 夜のお食事 —
午後5時~午後7時(受付)
午後9時閉店

定休日 毎週火曜日
屋のみ営業 毎週月曜日

膳の庵

あきる野市小川633
☎042-559-8080

営業時間
— 昼のお食事 —
午前11時~午後3時(受付)
— 夜のお食事 —
午後5時~午後7時(受付)
午後9時閉店

夜の部(17時~19時受付)のお食事は、1営業日前までのご予約とさせていただきます。

定休日 毎週火曜日
屋のみ営業 毎週月曜日

寺は文化の発信地 創ろう地域の文化を人から歴史から

そうぜんじ便り—神無月

第84回土曜講座 (お茶代300円) 11月4日 13時~15時30分

- イス坐禅とお話し 住職 高井 正俊
- 講談「新平家物語」 講談師 菊地玉雲さん
- タクロンチーバ普及協会より
「小説『反骨』の朗読」、トーク 琴葉さん
「五日市憲法と千葉卓三郎の魅力について語り合う」

学生無料。予約不要。檀信徒以外の方の参加大歓迎。

臨済宗建長寺派 宗禅寺 羽村市川崎2丁目8-20 ☎042-554-1276

WEB版東京25ジャーナルは毎週土曜日に配信します。

25区管内の政治、経済、社会、まちの話題を掲載

情報提供・広告の問い合わせなどは
題字下メールをご利用ください。